

クラッシー

CLASSY

発行 筑後八女地区 西日本新聞エリアセンター
企画 イースタンコミュニケーションズ
印刷 株式会社 東兄弟 TEL 0943-24-2111
八女市祈祷院 5 6 3 〒834-0025
HP : www.wing8.com/dc-city-yame/

クラッシーのバックナンバー（2010.1.1号より）がインターネットでご覧になれます。
「デジタルシティやめ」→クラッシー→検索

11 NOV

	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
12	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT	
心配ごと相談(八女市) 八女市社会福祉会館 11月6日・20日 黒木町ふじの里 11月6日・20日 上陽町地域福祉センター 11月13日・27日 立花町かがやき 11月13日・27日 法律相談(要予約) 八女市社会福祉会館 11月8日 黒木町ふじの里 11月15日 上陽町地域福祉センター 11月22日 司法書士相談 黒木町ふじの里 11月8日 八女市社会福祉会館 11月15日 筑後市 心配ごと相談 毎週木曜日／総合福祉センター 健康に関する総合相談 毎週金曜日／筑後市立病院				くろぎふるさと日曜市 毎週日曜日 上陽ふるさと市 毎週土曜日 〇読み聞かせ 八女市立図書館(本館) 毎週土曜日 午後2時～ ゆめみらい図書館(黒木分館) 毎月第2土曜日 午前11時～ 〇赤ちゃん読み聞かせ 八女市立図書館(本館) 毎月第3水曜日 午前11時～ ゆめみらい図書館(黒木分館) 毎月第4木曜日 午前11時～		1 9月28日 赤口 なんでも人権相談所 (八女市社会福祉会館)	2 29日 先勝 黄櫨の会 (社会福祉会館) 久留米絃文化博 ～3日 (筑後市・九州芸文館)
3 10月1日 仏滅 文化の日 田主丸かっぱウォーク (八女歩こう会) 帰居祭 (八女市・坂本画伯寿像前) 松田久彦氏卒寿祝賀会 (4:00 いわ井)	4 2日 大安 振替休日	5 3日 赤口 松尾弁財天縁日 (立花町)	6 4日 先勝	7 5日 友引	8 6日 先負	9 7日 仏滅 星のまつり ～10日 和太鼓フェスティバル (星野村星のふるさと公園)	
10 8日 大安 第4回DOGフェスタ (八女市宮野公園) 八女軽トラ市9:00～13:00 (八女市観光物産館駐車場) 第51回 樟の香りコンサート (川の駅船小屋恋ぼたる)	11 9日 赤口	12 10日 先勝	13 11日 友引 なんでも人権相談所 (筑後市勤労者家庭支援施設)	14 12日 先負	15 13日 仏滅 定例法律相談会(要予約) 10:00～12:00 (八女商工会議所) ☎22-5161 市民文化祭 (～17日・サザンクス筑後)	16 14日 大安 矢部まつり ～17日 (矢部川源流公園)	
17 15日 赤口 第52回 樟の香りコンサート (川の駅船小屋恋ぼたる) 八女さるき (八女青年会議所)	18 16日 先勝 べんがらの日(べんがら村) 大浴場お一人様300円	19 17日 友引	20 18日 先負 無料法律相談13:00～・要予約 (八女民主商工会) ☎24-2727	21 19日 仏滅	22 20日 大安	23 21日 赤口 勤労感謝の日 道の駅たちばな 秋の大収穫祭 ～24日(日)	
24 22日 先勝 八女軽トラ市9:00～13:00 (八女市観光物産館駐車場) 安部龍太郎氏講演会 16:00～(おりなす八女交流棟) 第53回 樟の香りコンサート (川の駅船小屋恋ぼたる) 第3回 茶/ちゃ/チャぐらんぷり (川の駅船小屋恋ぼたる)	25 23日 友引	26 24日 先負 お風呂の日 (グリーンピア八女) (温泉館きらら) (不動温泉八女) (公園の宿) (べんがら村)	27 25日 仏滅 不動産に関する何でも相談会 13:00～15:00 (八女商工会議所)	28 26日 大安	29 27日 赤口	30 28日 先勝 ミニ健康教室 ひざの痛み・変形性膝関節症を中心に (川崎病院・14:00～15:00) 青少年健全育成 ソフトボール教室 (筑後広域公園・広場)	

そぞろ寒。早や身にしみる晩秋11月。それにしても昨今、日本列島、ヒビ入りの感。台風26号は伊豆大島、土砂まじり吹き荒し。高度成長以降、樹々を、森林を、自然軽視の風潮への赤信号ではないか。▼幼ない子ども時期は、マンガで育てられる。「のらくろ」世代、「サザエさん」時代、わが家の孫たちは「アンパンマン」。この作家やなせたかしさん、逝去の報。94歳。「一寸先は光」と言いのこされた言葉は金言である。▼さて、公園の金木犀、花香る10月20日には、西日本新聞主催、金婚夫婦表彰式への招待。筑後地区330組。会場は「サザンクス筑後」。しかも代表で挨拶してほしいとの依頼。▼案内状を頂戴しての直観は、キン・コン・カンと鐘ひびき、華燭の典あげて50年、早や半世紀もの逝きし歳月かとの想い。▼それにしても昨今、国民祝祭日として9月15日は「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」として制定したものゝ、高齢少子者社会。三連休の行楽プランのみの現象。それだけに西日本新聞の企画、着想に感謝の念は深い。思えば、星をかぞえて、波(風)の音きいて、ともに過した幾歳月の喜び悲しみ、目にうかぶ。これからは世の無事を祈って、残照の人生元気で生きましよう。

天宮ふんぷり®
喜びも悲しみも
想えば50年の秋
詩人 椎窓 猛

街かど
gallery立花町山崎
牛嶋 英子

一度は習ってみたいと思っていた水墨画。公民館で講座があることを知り喜んで参加して勉強するチャンスに恵まれました。中島美代子先生から初心者にも分かりやすく丁寧に指導をしていただきました。水墨画の一筆濃淡で描く線のむずかしさ奥深さを知りました。子どもの頃から絵を描くことに夢中になっていました。年を重ねて出来るとは思いもしませんでした。サークルの友だちとの交流もすばらしく楽しい時を過ごすことができます。まだまだ思うように描けません、楽しく続けていきたいと願っています。

八女市立福島中学校一年

古川萌さんの
坂本繁二郎先生の『馬』模写画について

11月3日に坂本繁二郎先生の画業を讃える「帰居祭」が催される。そのポスター作製の依頼にこたえるために、坂本先生の絵をクレパスで古川萌さんに模写してもらった。

原画は昭和29年、先生が72才のときの『馬』である。同年5月9日号の『週間朝日』の表紙を飾った作品でもある。

萌さんにとって、久しぶりのクレパス使用が意外にも興味しんしんに見えた。学校の「夏休み」まで、奇しくも先生の忌日の7月14日に着手して、8月いっぱい完成した。

萌さんが描いては削り、削っては色を重ねる模写に楽しそうに挑戦して、原画のもつ複雑極まる色調に気づいてくれたことが、指導する当方にとって何よりも嬉しいことだった。坂本先生が一番お好きだった季節は夏だったとか。今年の酷暑に耐えた萌さんに拍手をおくりたい。

(杉山絵の教室 杉山 亜土)



杉山洋指導『紅彩会展』 11月12日～17日。
おりなす八女「ギャラリーA」にて開催。

眩き

節ばあちゃん

節さんは友人の今は亡き姑である。

戦中戦後を生きた節さんの人生は、澄まし顔の遺影からは想像できない、情念の火を静かに燃やし続けたドラマを秘めていた。

節さんの嫁ぎ先は手広く事業を展開する家だった。昭和16年長男にも恵まれ幸せの絶頂期に夫を戦地に送り出した。

終戦を目前に病に倒れた節さんの夫が戦地より送られた先は、野多目の福岡第二陸軍病院である。節さんは幼い長男を連れ、はるばる茨城から四日かけて野多目に駆け付けた。

節さんの祈りも虚しく夫は帰らぬ人となり、異郷の地で幼子と二人で節さんは夫を茶毘に附した。節さん25の時である。

その後、縁あって長男を連れて再婚した節さん。再婚せざるを得なかったのかもしれない。父親違いの子供たちを育てる苦労は有ったものの、長男を大学まで出してくれた二度目の夫に深く感謝し、良く仕えた節さん。

平成二年節さんは献身的な介護の末に夫を看取った。二度目の夫の納骨を済ませると、節さんは言った。

野多目につれて行って欲しいと。長男を立派に育ててくれた人が生きている間は封印してきた前夫への思いを、節さんは堰を切ったように語った。初めて男女の契りを交わした人への思いの火種を、節さんは半世紀の間その胸に温め続けてきたのであろうか。

健気で一途で愛おしい節さん。こんな女性が生きていた時代がどんどん遠くなる。
(夏生)



安達 格一

94歳まだまだ元気です

私の仕立て人生は18歳の時福島のカミヤ洋服店に就職した時がスタートです。7年間の軍隊生活の後中国から帰国して修行の後、28歳でアダチ洋服店を開店しました。その後テーラーアダチとして66年この道一筋を歩いてきました。昭和30年代の最盛期には八女市内に12～13軒の紳士服の仕立専門店があったと思いますが私の知る限り現在では八女に3軒位になりました。当時私の店では10名の職人が働いていました。紳士服の業界はオーダーからイージーオーダー、既製服、量販店と次第に変化していきました。私は一級洋服技能士、F I M Tデザイナー認定の技術有資格者というプライドから逃れにこだわってきましたが、時代の流れには逆らえず、頭を切り替えて洋服のリフォーム（補正、修理等）に転換しました。高度経済成長期は大量生産、使い捨ての風潮がありましたが、お気に入りの服をリフォームして長く楽しむ、これが本来の姿ではないでしょうか。今は7時頃起床して乾布摩擦、足揉みをして身体をほぐし、朝食後仕事場へ出ます。もともと好きな仕事ですから、仕事が苦になることは一度もありません。酒は昔からやりません。タバコは60歳頃まで1日20～30本吸っていました。家内に禁煙を言われてもやめられずにいましたが、ある日孫娘から「おじいちゃん、タバコを吸うとガンになるよ」と言われてピタリとやめました。家内からは私が何度お願いしてもやめなかったのと言われました。80歳を過ぎて二度大きな試練を受けました。80歳の時脳血栓で緊急入院しましたが一週間で退院でき、以後血圧は正常を保っています。87歳の時長く連れ添った妻を亡くしました。苦楽を共にした糟糠の妻でしたから大ショックでした。なかなか気持ちの整理がつかず、立ち直るのに約一年かかりました。今は一日のリズムもできて充実した毎日です。針の糸通しは脳を活性化させてくれるようです。糸かがりは手のリハビリ、足踏みマシンは足のトレーニングになっています。幾つにな

っても自分の仕事をとおして少しでも人様のお役に立てることは大きな生き甲斐です。作業台の上に仕事に使う年代ものの鋳物の羊の重しがある。安達さんは大正8年の末（ひつじ）年生まれ。ウールを相手にテーラー一代の偉大な人生。子どもは国の宝というが、安達さんのお年寄りもまた八女の財産である。



長年安達さんの仕事を見てきたシープの重し

健康万歳 ④

健康寿命を延ばそう

年金支給年齢の65歳を一応の線引きとして定年制をこのあたりに設定している処が多いが、長寿社会が定着し、これだけ平均寿命が伸びてくると、年金支給年齢も定年制度も共に成長しなければ国の財政はそのうち破綻せざるを得ず、福祉目的税（消費税）を10%にしたとて一時凌ぎに過ぎまい。現今、平均寿命が急速に伸びて男性79歳、女性87歳になったが、健康寿命との間には男性で3歳、

女性で7歳もの開きがある。言い換えればこの間は介護が必要ということだ。高齢者人口は約3、000万人、そのうち介護を要する人が560万人位いると言われている。人間は年老いると気力体力ともに衰えるのは当たり前で、特別な病気がなくても動脈硬化による血流の低下を来し、運動機能低下（腰痛、肩こり、関節痛など）による症状のほか、視力障害、難聴、便秘、尿漏れ、不眠、物忘れなどは当然で、明らかに高齢によると思われる「老年症候群」と仲良く付き合うのも大切

になる。若い頃の生活不摂生、特に運動や食生活、ストレス、喫煙習慣、過度の飲酒などの悪癖が大きな原因であれば、本人の自業自得と諦めざるを得ない。これに転倒骨折など加わるとA D L（日常生活活動度）が低下し治療と介護の両面が必要となってくる。症状が高じ寝たきりにでもなると認知症を誘発し、充分なコミュニケーションも取れず意思疎通もままならず生活周辺が狭くなってくる。しかし一方では元気に働いて、余暇はサークル活動（ゲートボール、グ

ランドゴルフ）や、グループ旅行などと「時間の流れ」を上手に利用し、結構充実した生活を楽しんでおられる同年齢層の人が遥かに多いことも事実だ。流行語となった「アンチエイジング」には教養と教育が必要、つまり「（今日用）事があること、（今日行く）所があること」「極言すればこれが老年症候群と呼ばれる暗いイメージの老人と、元気な老人を分けるキーワードになる。林 榮一（医師・八女市立花町）



楽しい絵手紙

昔から山遊びする子供の絶好のおやつとして親しまれてきた。運よく見つけることもあるが、発見が難しく珍重された。美しい薄紫の器の中に、白くトロリとした甘い実は、子供時代の幸せの甘さであった。

あけび（木通）は「開け実」が転じたものと言われている。

八女川柳会 安達 昇



今月の山柳

太陽の恵み貰った山の幸

川の情景 ④ 山太郎蟹

矢部川に生息する魚類の中で、最も美味しいと言われているのが山太郎ガニです。

本名は藻屑蟹と言い、ウナギ同様海で産卵・孵化した後、2～3月頃満ち潮に乗り川を遡上し、成長しながら矢部川の中流域及び小河川に棲みつきます。その後数年で親ガニになると、主と呼ばれる大型のオスは800g程に成育したのが稀にいます。そして川面に秋風が吹き、柿の木の葉が色づいて一雨降ると、産卵のために有明海目指して落ちていきます。

この時期のカニは、姿煮・カニ飯・カニ汁等調理されますが、山太郎ガニはシーズンが短く、特に最近は漁獲量が激減し、食卓に上る機会も少なくなっています。

数年前久し振りに帰郷した友にカニ飯と姿煮を振舞ったところ、『昔はドケデンバサロおったもんナイ、巢穴に手突っ込むと指ば挟まれた』と、昔話に華が咲いたので、後日福島の方Mさんに頼み矢部川産の一番型のよいカニを煮てもらい送ったところ、

『上海蟹は問題ならん、こげんうまかカニは滅多に喰われんバイ』と、感激の便りを呉れました。今後このような情景に遭遇できるかどうか？『矢部川の美味しい山太郎蟹』も夢物語となってしまうような、そんな気がする今日この頃です。

注：上海蟹と藻屑蟹は見た目は全く同じです。 内藤 洋臣（黒木町）



矢部川源流・杉の里の四季 ②⑤

ミゾソバ(溝蕎麦)[タデ科]

ミゾソバは小川や沼沢地などに生育する一年生草本。水田地帯の水路などに群生していることが多い。和名は溝に生育し、葉がソバに似ているから、別名の「うしのひたい」は、葉の形が牛の顔に似ているからである。

矢部村では9月～10月の稲刈り頃に花が咲く。花卉に見える部分は萼(がく)であり、花卉はない。葉を乾燥させ、煎じたものに利尿などの効能がり、生の茎には止血や鎮痛作用があるとされている。

松尾 重根(黒木町)



秋の草花

落ち葉が風に舞う頃となりました。公園を散歩していると鈴虫やコーロギの鳴き声もほとんど聴かなくなり、暮秋を体で感じます。草花の景色も夏とはずい分と変わってきました。私は四季の中で一番秋が好きで、そして秋の草花が大好きです。秋に茎を伸ばす可憐な花の吾亦紅、芒、秋桜、秋の七草の一つ女郎花等が好きです。散歩の途中で秋の草花や照葉を見付けては、利休所持であったといわれる桂川(京都)の魚籠(香雪美術館

蔵を、近代(明治以降)になって白峰斎という方がうつされた物に生け、雰囲気を楽しんでおります。利休七則の中に「二、花は野にあるように生け」とあります。自然体で季節感を大切にする、ということでしょうか。秋から冬に移り変わるの早いもので、今、この季節を存分に味わい、雪の景色が近づくのを、それを楽しみたいと思います。

服部 ゆみ子



人生・健康が一番 ⑥ マラソン人生の優勝者

ある田舎のマラソン大会に参加した時、「本当に走られますか？」と問われた事がある。「走りに来たのに失礼な・・・」と思いながらも、70歳代の老人が長距離を不思議がられたのも無理もない。いま、マラソンに例えると、折り返し点を過ぎた辺りに来たのだろうかと思う。35キロ前後からが、股関節が引っ張るか、心肺機能がパンクするか、日頃からの一步一步、練習で積み上げた体力の真価が試される。また、栄光のゴールを這いつくばってでも目指す強い精神力が求められる。自分との闘いである。

思い浮かぶのは角保初代会長(八女市蒲原)。高血圧・糖尿病・腰痛等に悩まされていた先生が、西ドイツ・スポーツ医学の権威であるファン・アーケン博士との出会いから、はじめてマラソン大会に出場されたのが、昭和47年「第1回天草パールマラソン」。(当時65歳)第1回大会から25年間連続出場の特別表彰受賞。数千のランナーを代表して選手宣誓をされたあの勇姿は、今でも脳裏から離れない。他にも、85歳でホノルルマラソン7時間5分14秒で年代別優勝。91歳の現役ランナーとして大濠マラソン2キロを15分54秒で完走等の記録。会場で大勢のランナーを前に報道関係等のインタビュー。健康長寿の秘訣「人間も動物、野山を駆け巡り、食べ物は玄米菜食」の持論を誇らしげに語られていた。ゴール時の晴れやかな表情から「真の人生マラソンの優勝者」の姿を連想する。

完全に健康を取り戻された先生は、マラソンの「健康に対する効用」を自分だけ享受するのはもったいないと、昭和52年、八女走ろう会を設立、全国区の著名ランナーとして健康マラソンの実践・普及に貢献された。先生の遺志を受け継いで、現在65名の仲間が八女走ろう会に結集している。残念ながら先生は、庭木を剪定中、脚立から落下骨折、運動が出来ない身体となり、それが原因で生涯現役の人生を閉じられた。

八女走ろう会 徳永 意信

阿蘇を「世界」に推薦！

豊かな地域資源を活用した自然公園「ジオパーク」の普及を推進する委員会は熊本県の「阿蘇」を世界ジオパークに推薦することを決め、来年の秋にも認定の可否が決まる。

決定されれば九州では雲仙岳に次いで2地域目となる。その理由として「現在も続く火山活動を体感でき、巨大なカルデラが売り物になっている」と述べている。

さて私達登山グループは、この推薦には大賛成である。

何回登っても飽きることがない圧倒的なスケールの大きさ、そして気が遠くなる程の歳月をかけてできた噴火の地層は、大いなる古代のロマンさえ感じる。吉田隊長が感動し「阿蘇は世界遺産だー」と叫んだ。

ジオパーク委員会では地元自治体の活動が活発になったことを評価しており、私達も阿蘇を「世界」にとエールを送っている。

八女文化連盟写真部 樋口 清人



西日本新聞をご購読のあなたにお届けしています